

「プラナリアの新しい餌(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「新しい」「革新的で」「手軽で」「安価な」「保存のきく」餌が発見された。しかもローソン100で普通に手に入る。プラナリア飼育者には朗報だろう。



餌を与えてから(水に沈めてから)6時間後に、肉片をピンセットで取りだしてみた。驚いたことに、全く型崩れせずに、つまみ出すことができた。豚レバーだったら、6時間後には原型を留めておらず、水全体が濁っているはずである。



プラナリア連「食事後」の肉片をよく観察すると面白い。脂身がそっくり残り、赤身の部分が減っている。プラナリアは、脂質よりもタンパク質を好むようだ。



餌の残りを取り出したあとの水も、餌のカスはほとんどなく、濁りもぼぼない。これは、今まで与えただの餌でも見られなかったことで、この点でも、この餌の優秀さがわかる。



この商品のポリ袋には、チャックはついていない。保存は、ジップロックかタッパーに入れて、冷蔵庫に入れておくのが良いだろう。商品には脱酸素材も入っていたので、それも一緒に入れておいた。

中の肉片の数を数えたら、約150個入っていた。毎日与える必要はないので、半年以上使える。開封後には冷蔵では長期保存できないだろうから、平らに並べて完全密封後、冷凍しておけば便利だろう。授業での給餌実験にも、簡単に使えそうだ。

12月に3年生の子どもたちにプラナリアを配った時は、豚レバーを推奨した。しかし、なかなか手に入らないという声も多かった。これなら容易に手に入るし、子どもでも簡単に扱える。犬を飼っている家庭も多い。今後は、これを紹介しようと思う。